

読むと西陣のまちが♡好き♡になる

にしじんがっく

西陣学区ニュース

上京区社協が発行する、コロナ禍における学区内の動きをお伝えするニュースです。

No.2

Feb.2021



西陣学区のまちづくり活動について 教えて、会長さん！

今回は、西陣地域住民福祉協議会 藤林 宏 会長 及び 茶房はと利ベ スタッフの方に、コロナ禍中・コロナ禍後のまちづくり活動について、上京区社協職員がお話を伺いました。



◎コロナ禍後のまちづくり活動について

次世代の担い手が、なかなか見つからなくて困っています。会議一つとっても、今は昼間にやることが多いですが、それではサラリーマン世帯は参加できません。以前は祖父母が同居しているので、主婦が家を空けることができましたが、今では家族構成そのものが変わっています。結果、「みんなが集まれる時間」がありません。

現在、「会議に来なくてもいいよ」という条件でやってもらっている人もいます。そして、若い人は若い人のやり方でやればいとも思っています。必ずしも前例を踏襲したり、遠慮しなくていい。アイデアを出し合って、暮らしやすい西陣学区にしていきたいですね。

◎茶房はと利ベ スタッフの方から

はと利ベを再開するとき、正直「大丈夫かな？」と思いました。でも、藤林会長が「何かあれば自分が責任を取る」と言ってくださり、チャレンジしてみようと思えました。

長年活動を続けてきて、今ではわたしの身体が、はと利ベのある「8の日」のサイクルになっています。9年間、参加者さんもスタッフもいろんなことがありました。でも、はと利ベに来ると元気に顔を合わせられる、「おはよう！」と声を掛け合える。西陣学区の中に、そうした確かな場所があることが嬉しいです。

◎コロナ禍中のまちづくり活動について

はと利ベを昨年6月から再開し、無事に9周年を迎えることができました。再開後は大々的に広報しなかったにも関わらず、たくさんの方にお越しいただき、みなさん喜んでいただきました。コロナ禍ですが、西陣のコミュニティの基盤があるからこそ開催できているのだと思います。

わたしはいつも、「次回はどうすれば、みなさんが喜んでくれるかな」と考えています。例えば、ゆで卵やバナナを配った時は、みなさんに「久

しぶりに食べた」と喜ばれました。一人暮らしの高齢の方はあまり料理をしないし、果物を食べる機会もありません。コンビニにはないようなものを、気持ちを込めてお渡ししたいですね。

はと利ベには様々なスタッフさんがいらしゃいますが、注文を取る人・コーヒーを淹れる人・片付ける人…全ての人に番があります。お客さんも自分の居心地のいいテーブルを見つけ、思い思いに過ごされています。ここは、みなさんにとっての「まちの居場所」になっています。

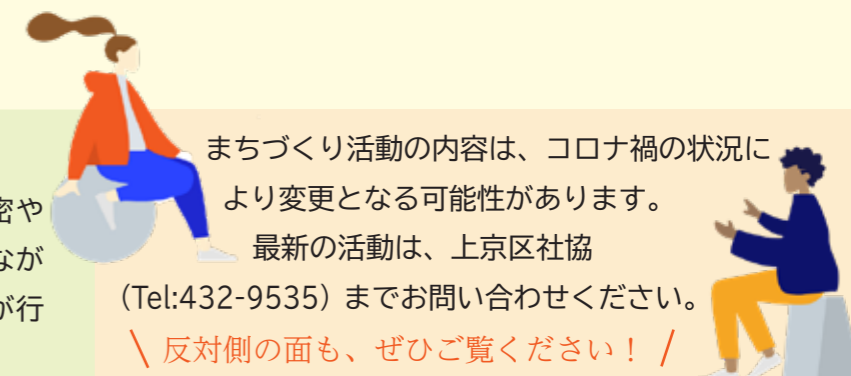
はと利ベは今後も開催を続けていきたいですが、コロナ禍でも開催出来るのはスタッフやお客さんを信じているからです。コロナ禍で一番怖いことは、「根も葉もないうわさ」。手指消毒、検温、換気、3密の回避…こうした感染予防の取り組みを毎回行うのはもちろん、「うわさに惑わされんよう気をつけて」と呼びかけ続けたいですね。どこかで困ったことがおこるかもしれませんが、開催を続けることで毎回笑顔が生まれています。今開催しなくなったら、ずっと出来なくなってしまうと思いますね。



コロナ禍前に行われていた、クリスマス会の様子。



西陣学区では、3密や衛生面に気を配りながらまちづくり活動が行われています。



まちづくり活動の内容は、コロナ禍の状況により変更となる可能性があります。最新の活動は、上京区社協 (Tel:432-9535) までお問い合わせください。

反対側の面も、ぜひご覧ください！